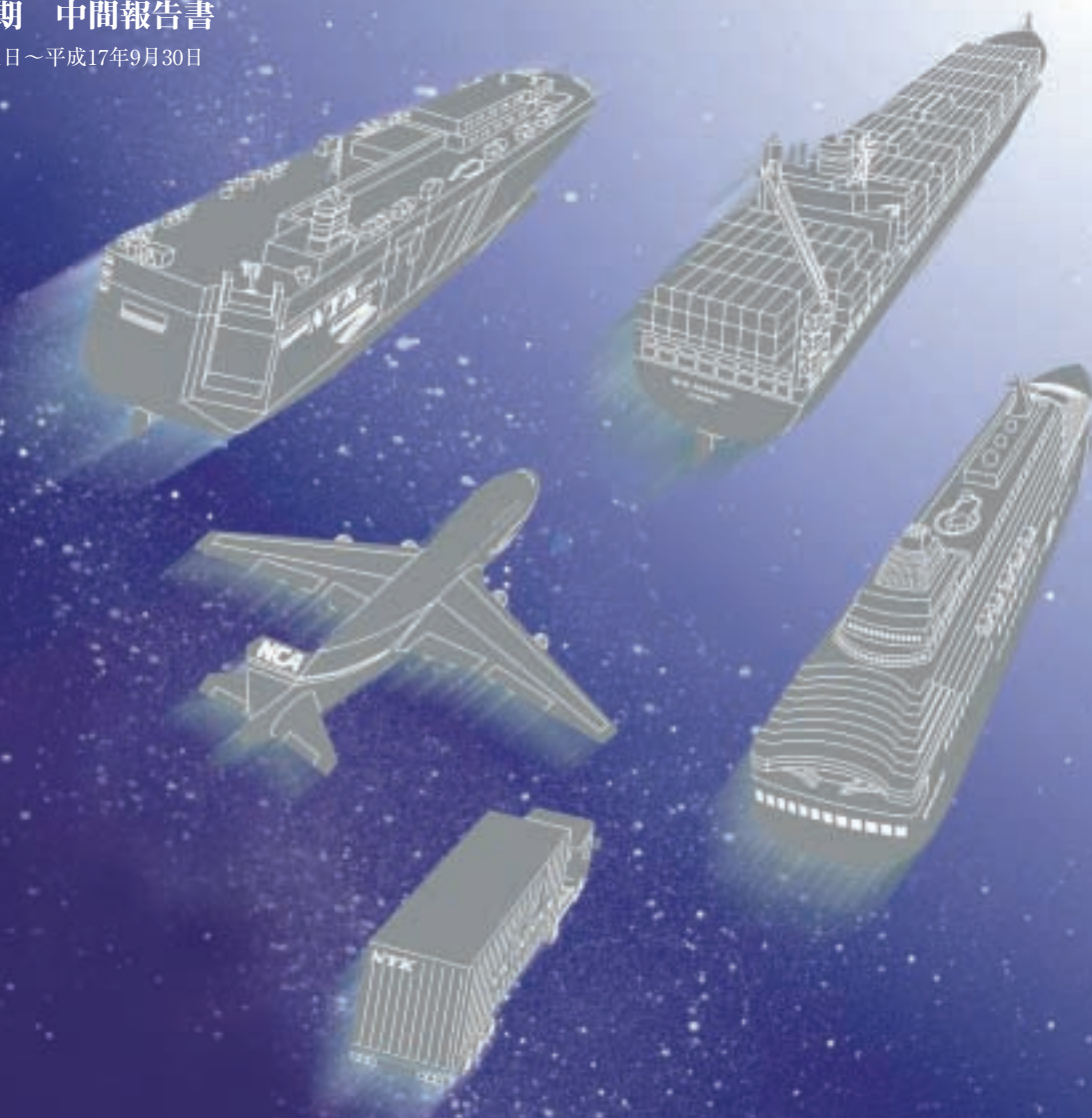


 日本郵船株式会社

第119期 中間報告書

平成17年4月1日～平成17年9月30日




NYK LOGISTICS
& MEGACARRIER

Bringing value to life.

NEWS 定期便

航空貨物輸送業界の雄、 日本貨物航空（株）を当社の連結子会社へ

●日本貨物航空は、全日本空輸（株）と当社が27.6%ずつ出資する貨物専門航空会社として、それぞれの持分法適用会社でしたが、本年8月に当社は全日本空輸と合意の上、日本貨物航空の議決権の過半数を取得し、日本貨物航空を当社の連結子会社としました。

1985年の日米路線就航以来、日本貨物航空は貨物専門航空会社として輸送実績を着実に拡大し、航空貨物輸送業界で確固たる地位を築いてきました。今回の日本貨物航空の連結子会社化は、高い成長が見込まれる航空貨物輸送市場において、同社の事業規模を拡大し、より一層の顧客サービスの向上とコスト削減を実現し、競争力を高める為の選択と考えています。

今後、日本貨物航空を競争力のあるキャリアに育て、同社を当社グループの総合物流戦略の大きな柱にすると共に、海・陸・空のネットワークの強化と総合物流業者としての顧客サービスの充実を目指します。



社長メッセージ：Q&A形式で目標と抱負を表明いたします。

中期経営計画“New Horizon 2007” について教えてください。

宮原 ● 当社グループは、新たな中期経営計画“New Horizon 2007”を策定し、2005年4月よりスタートさせました。“New Horizon 2007”は、2005年3月末に完了した“Forward 120”の成果を踏まえ、さらに「力強い成長戦略の加速と企業基盤の安定化」をテーマとし、2005年度からの3ヶ年、さらに2010年を見据えた計画となっています。具体的には、2008年3月期に連結売上高1兆8,000億円、経常利益1,600億円、当期純利益950億円、さらに2010年度に連結売上高2兆円超、経常利益1,800億円超という目標を設定しています。

これらの目標達成のために3つの戦略を掲げています。まず、第一の戦略は“**海運事業の拡充**”です。今後とも予想される世界的規模での海上荷動きの増加に対応するため、バルク・エネルギー輸送部門を中心とした船隊規模を積極的に拡大していきます。2005年から2010年の6年間で約280隻の船隊整備を行う計画です。第二が“**ロジスティクス・インテグレーターへの飛躍**”です。当社グループは、総合物流本部構想をさらに一歩進め、グループが誇る世界有数の大規模船隊をはじめとするハードと、海・陸・空にひろがる国際輸送ネットワーク（ソフト）を組み合わせ一体化し、お客様の多様化・高度化するニーズに応えることができるロジスティクス・インテグレーターを目指します。第三が“**企業**



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社は、本年10月1日に創業120周年を迎えました。永年にわたる株主の皆様のご支援に厚く御礼を申し上げます。

今後とも一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

宮原 耕治

“**基盤の強化**”です。当社グループの基本であり最も重要な経営課題である船舶の安全運航と環境経営の遂行に加え、(株)MTI (Monohakobi Technology Institute) を中心とした技術力強化と研修教育の充実、情報を駆使した経営の実現、全世界のグループ社員を対象とした人材育成に積極的に取り組みます。さらに、本年4月にはCSRマネジメント本部を新設し、CSR活動の強化・推進を図っています。

会社の現状と今後の見通しについて 教えてください。

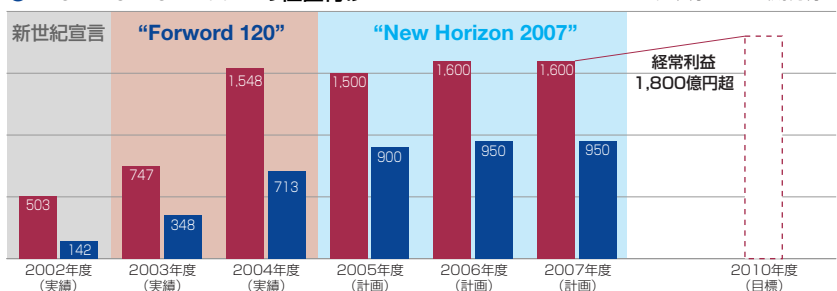
宮原 ● 全般的に海運市況はしばらく堅調な推移が見込まれています。この背景には、世界的な好景気と特に中国を中心とした荷動き拡大や船腹の需給逼迫などがあり、この傾向は少なくとも今後3~4年は継続するといわれています。

当中間期における為替相場はドル高・円安傾向が継続し、当社グループ収支の下支えとなりました。また、中国人民元の切り上げの影響については、切り上げ幅が想定より少なく、将来に向け軟着陸の期待もあることから影響は軽微と予想しています。他方では、BRICs（ブラジル、ロシア、インドおよび中国）の経済発展に伴い、世界の資源の流れは大きく変わり、消費国による資源獲得への動きが強まっています。特に、原油価格の高騰に連動し、船舶用燃料油価格も高騰しています。当社グループでは従来より燃料費節減運動を展開してきまし

●連結財務数値目標 (億円)

	2004年度 実績	2005年度 計画	2006年度 計画	2007年度 計画	2010年度
売上高	16,060	16,400	17,500	18,000	売上高 2兆円超 経常利益 1,800億円超 を目指す
事業利益	1,665	1,650	1,750	1,750	
経常利益	1,548	1,500	1,600	1,600	
当期純利益	713	900	950	950	
※事業利益=営業利益+ 受取利息および配当金					税引後投下資本事業利益率 (ROIC) 8%以上

●“New Horizon 2007”の位置付け (億円)



たが、この運動をさらにパワーアップさせて、全社一丸となって燃料費増大の抑制に努めています。

また、定期船事業部門において、当社が加盟する世界規模のコンテナ船共同運航組織グランドアライアンス(GA)は、同じく共同運航組織であるザ・ニューワールドアライアンス (TNWA) と業務提携に合意しました。この提携により、世界最大の運航規模を誇る質量ともにより高いレベルのサービス提供が可能となります。さらに“New Horizon 2007”に掲げたとおり、海運事業での船隊規模の拡充を図るとともに、物流、ターミナル、客船、航空貨物などの非海運事業を着実に安定した収益源として大きく育てていく方針です。

“New Horizon 2007” 経営戦略 (2005~2007年度)

戦略 1

海運事業の拡充

- バルク・エネルギー輸送部門を中心とした海上輸送の拡大に応える船隊拡充
- より一層の収益安定化

戦略 2

ロジスティクス・インテグレーターへの飛躍

- 自動車関連産業、エレクトロニクス他製造業、小売業のお客様に対する高品質な総合物流サービスの提供
- コンテナ・自動車・物流・港湾各サービスの品質強化と一体化
- 海・陸・空3面からのサプライチェーン効率化
- 自営港湾インフラ強化による海上輸送の安定供給



本年10月に創業120周年を迎えましたが、
社長としての感想と今後の決意を
聞かせて下さい。

宮原 ● 当社グループのリーダーとして創業120周年という記念すべき歴史的な節目に立会えたことは大変感慨深く、身が引き締まる想いです。当社がこれまで歩んできた道は決して平坦ではなく、幾多の苦難や難局を乗り越えてきました。明治18年(1885年)の創業から欧米の外航海運会社に比肩する海運企業へと成長を果たした戦前の60年、そして終戦後ゼロから今日のグローバルな総合物流企業へと発展した戦後の60年を経て、いわば2回目の還暦を迎えることができました。

さて、来年5月に新会社法が施行される予定ですが、これは、明治以来の大きな商法改正といわれています。当社は、近代国家として諸法典の整備に取り組んでいた明治政府の指導の下、明治26年(1893年)12月に旧商法に基づいた模範と

なる定款を作成し、日本最初の株式会社のひとつとしてスタートし、今日に至っています。当社は、今後とも創業以来の理念である公正かつ透明な経営を実践し、効率的な事業活動を通じて、株主の皆様のご期待に添うべく邁進していく所存です。

この度、新しいキャッチフレーズ
“Bringing value to life”を披露しましたが、
その意味するところを教えてください。

宮原 ● 当社グループの原点は、「モノ運び」にあります。当社が考える「モノ運び」とは、単にA地点からB地点にモノを移動することだけではありません。

お客様のつくり出された価値である商品やそれに込められた想いも一緒に運ぶことを常に意識しています。どのように運べば効率的で確かかを考えながら戦略的に運ぶことで、モノはお客様の期待以上の新しい価値を生み出します。こうした観点から、当社は「モノ運び」は「価値運び」であるとの認識を持ち、これからもお客様から選ばれ信頼されるパートナーであり続けるために、社員ひとりひとりが誇りを持って、着実にしっかりと日々の仕事に取り組んでいます。

当社グループスタッフ約33,000人がこのコンセプトをしっかりと共有し、海・陸・空の総合物流企業として世界中の人々の生活を支え、文化・経済の発展の向上に貢献していきたいという当社の企業姿勢をこのキャッチフレーズに託しています。

2005年12月

代表取締役社長

宮原 耕 治

力強い成長戦略の加速と、企業基盤の安定化

戦略 3

企業基盤の強化

- 環境経営の推進と安全運航の徹底
- グローバルなフィールドでの人材育成と活用
- MTIを中心とした技術力強化と研修教育の充実
- 情報を駆使した経営の実現
- CSRマネジメントの推進

“世界をリードする、
グローバルな
海・陸・空の
総合物流企業
グループ”へ

NYKグループ 総合物流企業グループとしての変革を続け、さらなる成長を遂げていきます。

NYKグループは、常にお客様の信頼を獲得すべく、安全かつ高品質なサービスを追求し続けてきました。その結果、世界でも有数の大規模船隊と「海・陸・空」に広がる国際輸送網を駆使し、LOGISTICS & MEGACARRIERならではの輸送サービスを実現するに至っています。世界の荷動きはこれからも複雑・多様化し、世界中をいっそう自在かつ迅速に行き交う物流サービスが求められるようになります。NYKグループは、より多くのお客様に、より多様な満足をお届けすることを目指して、海運事業の強化、そして総合物流企業グループとしての変革を続け、さらなる成長を遂げていきます。

● **グループ従業員数**：25,541名
(当社および連結子会社のみ)

● **グループ運航船舶数**：686隻 40,644,882重量トン (K/T)



定期船事業

(億円)	平成17年 9月中間期	平成16年 9月中間期
売上高	2,604	2,230
営業利益	157	237
経常利益	162	233

外航貨物海運業

- 当社
- 東京船舶 (株)
- 日之出郵船 (株)

船舶貸渡業

- ASTARTE CARRIERS, LTD.

他

運送代理店業

- NYK LINE JAPAN (株)
- NYK LINE (NORTH AMERICA) INC.
- NYK LINE (EUROPE) LTD.

他

その他海運事業

(億円)	平成17年 9月中間期	平成16年 9月中間期
売上高	3,231	2,743
営業利益	520	463
経常利益	525	453

外航・沿海貨物海運業

- 当社
- NYKグローバルバルク (株)
- 近海郵船物流 (株)
- 八馬汽船 (株)
- NYK BULKSHIP (EUROPE) LTD.
- NYK REEFERS LTD.
- NYK BULKSHIP (USA) INC.

他

船舶貸渡業

- ALBIREO MARITIMA S.A.

他

物流事業

(億円)	平成17年 9月中間期	平成16年 9月中間期
売上高	1,990	1,646
営業利益	53	30
経常利益	55	29

■ 当社

- 郵船航空サービス (株)
- (株) ジェイアイティ
- (株) ユニエツクス
- 郵船港運 (株)
- 旭運輸 (株)
- NYK LOGISTICS (AMERICAS) INC.
- NYK LOGISTICS (UK) MANUFACTURING & RETAIL LTD.
- NYK LOGISTICS (UK) CONSUMER & RETAIL LTD.
- YUSEN AIR & SEA SERVICE (USA) INC.

他

ターミナル関連事業

(億円)	平成17年 9月中間期	平成16年 9月中間期
売上高	560	545
営業利益	37	21
経常利益	7	2

■ 当社

- (株) ユニエツクス
- (株) ジェネック
- 日本コンテナ・ターミナル (株)
- 日本コンテナ輸送 (株)
- 旭運輸 (株)
- YUSEN TERMINALS INC.
- NYK TERMINALS (NORTH AMERICA) INC.

他



客船事業

(億円) 平成17年 平成16年
 9月中間期 9月中間期

売上高	234	147
営業利益	26	△ 35
経常利益	23	△ 40

- 郵船クルーズ (株)
- CRYSTAL CRUISES, INC.
- 他



不動産業

(億円) 平成17年 平成16年
 9月中間期 9月中間期

売上高	62	59
営業利益	15	15
経常利益	19	18

- 当社
- 郵船不動産 (株)
- 他



その他の事業

(億円) 平成17年 平成16年
 9月中間期 9月中間期

売上高	817	703
営業利益	△ 6	△ 6
経常利益	△ 1	5

曳船業

- (株) 日本海洋社
- 他

機械器具卸売業 (船舶用)

- 三洋商事 (株)
- 他

情報処理サービス業

- (株) エヌワイケイシステム総研
- 他

石油製品卸売業

- 郵船商事 (株)

旅行業

- 郵船トラベル (株)

航空運送業

- 日本貨物航空 (株)

※部門売上高消去前の数字です。
 ※主なグループ会社を記載しています。
 ※郵船航空サービス㈱は東京証券取引所
 (市場第一部) に上場しています。

平成17年9月中間期の連結業績

連結業績の概況

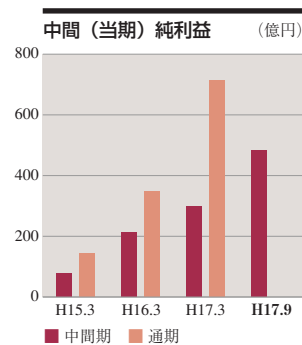
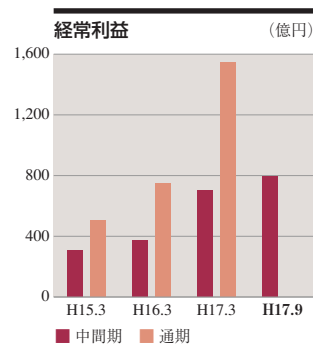
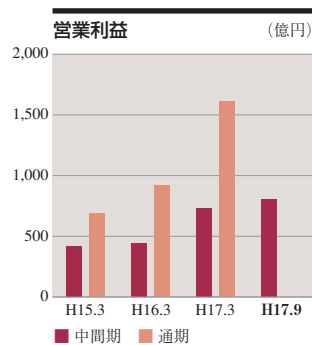
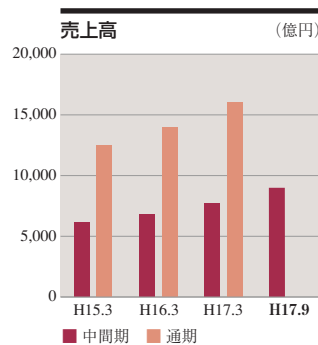
当中間期（平成17年4月1日から9月30日までの6ヶ月間）の連結業績は、売上高8,995億円（前中間期比17.1%増）、営業利益805億円（同10.8%増）、経常利益792億円（同12.7%増）、中間純利益483億円（同62.6%増）となりました。本業績は、本年5月に発表した中間期業績予想（売上高8,300億円、営業利益800億円、経常利益780億円、中間純利益470億円）をいずれも上回っており、過去最高です。

海運事業は、定期船事業が前中間期を下回りましたが総じて順調でした。定期船事業は北米・欧州の基幹航路において燃料油価格の高騰や内陸輸送コスト増加の影響を受けましたが、自動車輸送は引き続き堅調に推移しました。バルク輸送は軟化した市況が徐々に回復し、エネルギー輸送も一部タンカー市況が若干軟調に推移したものの順調に稼動しました。物流事業は収益改善の施策を進めた結果、売上高、利益を大きく伸ばしました。客船事業は日本・米国マーケット共に好調で当中間期は黒字に転換しました。ターミナル関連事業は堅調な荷動きにより取扱量が増加しました。

下期は燃料油価格高騰などのコスト増加要因もありますが、通期の連結業績の見通しは、売上高1兆8,400億円、営業利益1,550億円、経常利益1,500億円、当期純利益920億円を予想しております。

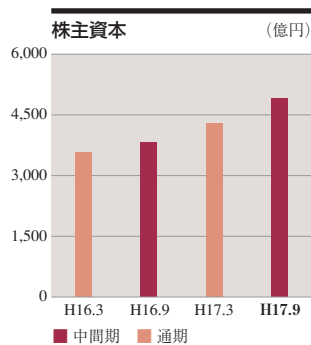
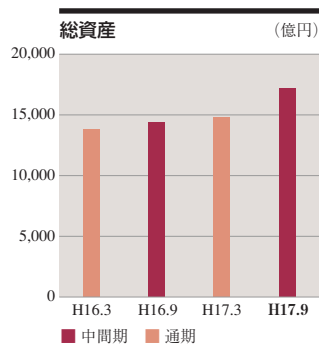
連結貸借対照表の要旨

	当中間期 平成17年9月30日 現在	前期 平成17年3月31日 現在
資産の部		
流動資産	461,061	399,500
現金及び預金	76,037	66,739
受取手形及び営業未収金	210,115	189,656
その他	177,894	144,760
貸倒引当金	△ 2,986	△ 1,655
固定資産	1,258,131	1,076,604
有形固定資産	803,183	701,157
船舶	456,848	453,364
建物及び構築物	73,420	69,265
航空機	28,475	—
土地	60,527	59,345
その他	183,911	119,180
無形固定資産	45,817	33,674
投資その他の資産	409,130	341,773
投資有価証券	328,121	280,660
その他	82,798	63,647
貸倒引当金	△ 1,789	△ 2,534
繰延資産	90	121
資産合計	1,719,283	1,476,226



(単位：百万円)

	当中間期 平成17年9月30日 現在	前期 平成17年3月31日 現在
負債の部		
流動負債	580,831	477,865
支払手形及び営業未払金	166,830	152,418
社債短期償還金	4,000	25,008
短期借入金	211,530	140,850
コマーシャル・ペーパー	29,000	—
前受金	54,003	49,170
その他	115,466	110,418
固定負債	611,854	541,673
社債	102,800	106,800
長期借入金	399,313	357,396
その他	109,740	77,477
負債合計	1,192,686	1,019,538
少数株主持分		
少数株主持分	36,846	28,917
資本の部		
資本金	88,531	88,531
資本剰余金	94,427	94,421
利益剰余金	232,896	203,774
株式等評価差額金	81,064	55,335
為替換算調整勘定	△ 3,563	△ 10,819
自己株式	△ 3,605	△ 3,472
資本合計	489,751	427,770
負債、少数株主持分及び資本合計	1,719,283	1,476,226

**連結損益計算書の要旨**

(単位：百万円)

	当中間期 自平成17年4月1日 至平成17年9月30日	前中間期 自平成16年4月1日 至平成16年9月30日
売上高	899,516	768,179
営業費用	818,986	695,500
営業利益	80,529	72,678
営業外収益	8,344	6,882
営業外費用	9,636	9,249
経常利益	79,237	70,311
特別利益	3,148	6,942
特別損失	3,875	26,708
税金等調整前中間純利益	78,510	50,544
法人税、住民税及び事業税	30,057	25,069
法人税等調整額	△ 1,708	△ 5,992
少数株主利益	1,762	1,694
中間純利益	48,399	29,772

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：百万円)

	当中間期 自平成17年4月1日 至平成17年9月30日	前中間期 自平成16年4月1日 至平成16年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	57,443	68,635
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 92,098	△ 69,662
財務活動によるキャッシュ・フロー	41,450	6,796
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,126	43
現金及び現金同等物の増減額	7,923	5,813
現金及び現金同等物期首残高	65,027	63,632
連結範囲変更による現金及び現金同等物の増減額	1,046	1,355
連結子会社における合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	3	—
連結子会社の決算期変更に伴う現金及び現金同等物の期首残高減少額	△ 105	—
現金及び現金同等物中間期末残高	73,895	70,800

平成17年9月中間期の単体業績

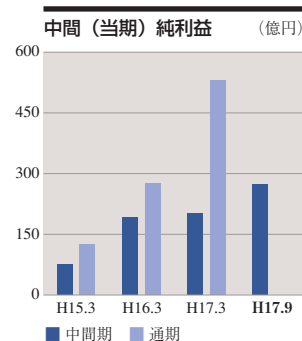
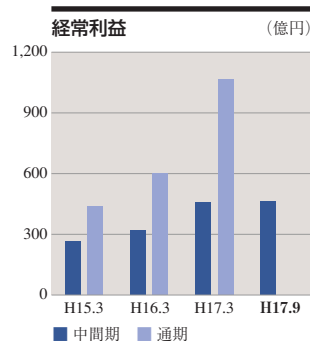
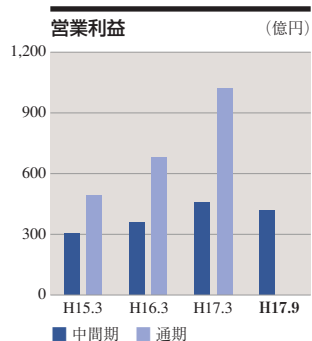
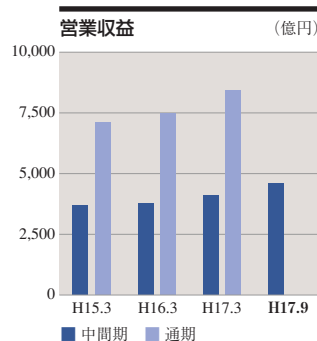
単体業績の概況

当中間期（平成17年4月1日から9月30日までの6ヶ月間）の単体業績は、営業収益4,574億円（前中間期比11.8%増）、営業利益416億円（同9.1%減）、経常利益461億円（同1.1%増）、中間純利益274億円（同35.2%増）となりました。営業利益以外は、本年5月に発表した中間期業績予想（営業収益4,300億円、営業利益460億円、経常利益460億円、中間純利益270億円）を上回っており、過去最高です。

上期は海運市況が前中間期に比し一部軟化し燃料油価格の高騰や内陸輸送費の上昇などコスト増に見舞われましたが、自動車輸送やバルク・エネルギー輸送は概ね順調でした。下期は前述のコスト増が引き続き懸念されますが、一層のコスト削減に努め、通期の単体業績の見通しは、営業収益9,150億円、営業利益850億円、経常利益920億円、当期純利益550億円を予想しております。

貸借対照表の要旨

	当中間期 平成17年9月30日 現在	前期 平成17年3月31日 現在
資産の部		
流動資産	236,614	220,102
現金及び預金	11,764	11,221
営業未収金	67,252	58,215
その他	174,979	165,642
貸倒引当金	△ 17,382	△ 14,976
固定資産	760,877	718,862
有形固定資産	159,754	172,450
船舶	102,170	109,456
土地	31,121	32,511
その他	26,462	30,483
無形固定資産	19,524	16,664
投資その他の資産	581,599	529,746
投資有価証券	279,097	240,523
子会社株式及び出資金	146,220	144,915
その他	165,791	155,241
貸倒引当金	△ 9,509	△ 10,933
繰延資産	90	120
資産合計	997,582	939,085



(単位：百万円)

	当中間期 平成17年9月30日 現在	前期 平成17年3月31日 現在
負債の部		
流動負債	251,877	227,594
営業未払金	63,604	57,333
社債短期償還金	4,000	24,000
短期借入金	50,314	41,798
その他	133,958	104,462
固定負債	342,064	345,912
社債	102,800	106,800
長期借入金	190,029	199,888
その他	49,235	39,224
負債合計	593,942	573,507
資本の部		
資本金	88,531	88,531
資本剰余金	93,198	93,198
利益剰余金	149,056	134,565
株式等評価差額金	76,452	52,740
自己株式	△ 3,597	△ 3,457
資本合計	403,640	365,578
負債及び資本合計	997,582	939,085

損益計算書の要旨

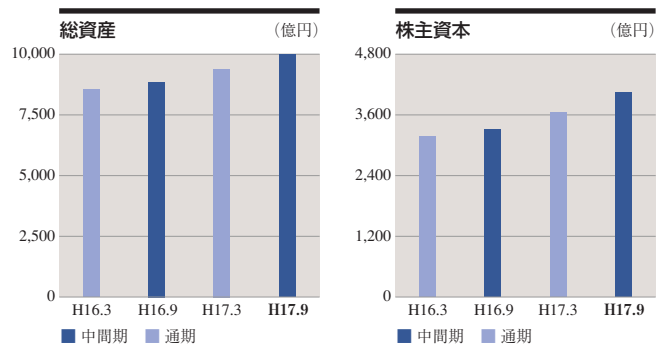
(単位：百万円)

	当中間期 自平成17年4月1日 至平成17年9月30日	前中間期 自平成16年4月1日 至平成16年9月30日
営業収益	457,446	409,130
営業費用	415,758	363,263
営業利益	41,688	45,867
営業外収益	8,874	4,782
営業外費用	4,430	5,010
経常利益	46,132	45,638
特別利益	2,338	3,482
特別損失	5,489	17,952
税引前中間純利益	42,981	31,169
法人税、住民税及び事業税	19,388	13,547
法人税等調整額	△ 3,818	△ 2,647
中間純利益	27,410	20,270
前期繰越利益	28,599	21,336
中間未処分利益	56,009	41,606

配当金について

当社の財務状況、中間期業績および通期の業績予想などを踏まえ、株主還元を重視する立場から総合的に勘案いたしました結果、当期の中間配当金は、1株につき9円（前中間期比1円50銭の増配）とし、平成17年12月5日を支払開始日といたしました。

年間配当金は、1株につき18円とさせていただきます。



NYKグループが世界に誇る「クリスタル・ハーモニー」が、「飛鳥Ⅱ」に生まれ変わります。

1990年6月のデビュー以来、最高級のラグジュアリーシップとして北米を中心とした世界の客船マーケットで高い評価を受けている、クリスタル・クルーズ社の運航する「クリスタル・ハーモニー」は、2006年春に日本へ舞台を移し、郵船クルーズ社が運航する「飛鳥」の後継船「飛鳥Ⅱ」として生まれ変わります。

飛鳥で培われた「和のおもてなしの心」を大切に継承し、和と洋の感性と様式を理想的に融合させました。世界最高水準の設備と心温まるサービスに包まれて、わが国の新しいクルーズ文化の幕が開きます。

2万9千トンの飛鳥から、 5万1千トンの飛鳥Ⅱへ。

まずは2層吹き抜けとなったエントランス・アトリウムがお客様をお出迎え。飛鳥の1.8倍となる船内は、何処もゆとりに満ちています。

レストラン、ラウンジをはじめ、ご利用いただくそれぞれの施設の数が多くなり、船内の楽しみ方は一段とスケールアップします。

また、全室海側に面した上質のインテリアが自慢の客室は、広さ、使いやすさが向上し、特にベランダ付きの割合が大幅に増加しているのも特徴で、快適なクルーズライフを提供します。

スタッフも充実し、サービスは さらにレベルアップ。

船内の施設はダイナミックに変化を遂げますが、お客様へのサービスは飛鳥を継承しつつ、さらに進化します。

キャプテンをはじめ、ホテルマネージャー、チーフパーサー、クルーズ・コーディネーターなど飛鳥の日本人スタッフや、お馴染みとなった客室係、ウエイターなど外国人スタッフがそのまま乗船。新しいスタッフも加えて、飛鳥で培ったおもてなしの心と、船旅のくつろぎの演出も大切に受け継いでいきます。

施設が大幅に増えて、 船内の楽しみ方がより多彩に。

レストラン、ラウンジ、スポーツリラクゼーション、ショッピングなどの施設が増えて、クルーズライフに彩りを添えます。

食事は飛鳥同様、朝昼食では和食と洋食を選べ、ディナーではフランス料理や日本料理などバラエティに富んだメニューが楽しめます。ティータイム、パーティタイムなど、くつろぎの時間を演出するラウンジも豊富です。また、洗練されたエンターテイナーによるショーやゲストを招いたコンサートなど、娯楽面も充実しています。

飛鳥Ⅱ外観



飛鳥Ⅱと飛鳥の比較

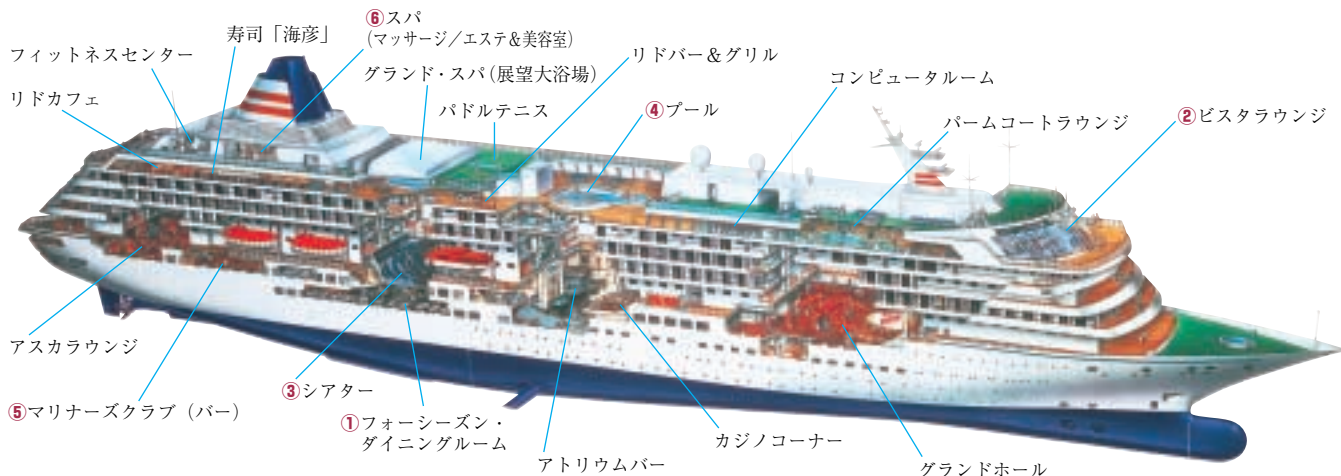
	飛鳥Ⅱ	飛鳥
全長・全幅	241m×29.6m	193m×24.7m
総トン数	51,000t	28,856t
喫水	7.5m	6.7m
航海速力	最高23ノット	最高21ノット
横揺れ防止装置	フィンスタビライザー	フィンスタビライザー
客室数／乗客数	400室／720名	296室／592名
ベランダ付き客室比率	54%	36%
乗組員数	400名	270名

飛鳥Ⅱの主な施設紹介

施設の数が増えて、一段とスケールアップする船内。

多彩なプログラムやイベントで、クルーズライフが広がります。

欧米で高い評価を受けた船内は、日本人の嗜好を加えて改装し、増えた施設の数だけ楽しさも広がります。レストラン、ラウンジやショッピングエリア、娯楽施設などが集まるデッキでは、お客様のパブリックゾーンでの行動範囲を広げ、特にデッキのある客室ではプライベートな空間を大切にし、それぞれのクルーズライフを使い分けてご利用いただけます。



①フォーシーズン・ダイニングルーム



②ビスタラウンジ



③シアター



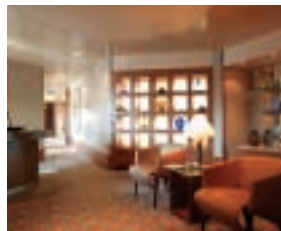
●客室/ステート・ルーム



④プール



⑤マリナーズクラブ (バー)



⑥スパ (マッサージ/エステ&美容室)



●客室/ロイヤル・スイート・ルーム

取締役及び監査役並びに経営委員 (平成17年9月30日現在)

取締役会長経営委員



草刈 隆郎*

取締役社長経営委員



宮原 耕治*

取締役副社長経営委員



石田 忠正*



小澤 幸夫*

専務取締役経営委員



萬治 隆生*



田宮 道雄*



山脇 康*

常務取締役経営委員

太田 隆博*	倉本 博光
佐藤 実	工藤 泰三
井上 幸一	杉浦 哲
清水 裕幸	井川 元雄
諸岡 正道	

取締役経営委員

菊池 晋

監査役(常勤)

神谷 一平 清水 繁

監査役(非常勤、社外監査役)

北島 敬介 宮崎 毅

経営委員

安永 豊	高畑 尚紀
五十嵐 誠	村田 良治
片山 真人	加藤 正博
宝納 英紀	仙波 雄二
那波 光俊	山縣 三朗
石田 隆丸	山下 俊憲
服部 浩	田澤 直哉
碓井 康之	内藤 忠顕

経営委員(社外経営委員)

小林 進二 大槻 哲史
 松永 武士 檜岡 孝武
 ラニー・ボーン (Lanny Vaughn)

*印は代表取締役を示しています。

株式の状況 (平成17年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	2,983,550,000株
発行済株式総数	1,230,188,073株
自己株式	
1. 当中間期における取得株式	215,440株
単元未満株式の買受け	215,440株
2. 保有自己株式	9,471,264株
株主数	121,493名
大株主 (上位10名)	所有株式数
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	108,870,000株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	96,921,000株
東京海上日動火災保険株式会社	57,275,059株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 三菱重工業株式会社口・退職給付信託口	54,717,149株
明治安田生命保険相互会社	38,899,038株
株式会社東京三菱銀行	36,978,337株
株式会社みずほコーポレート銀行	29,417,550株
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505103	20,436,202株
資産管理サービス信託銀行株式会社信託B口	14,616,000株
野村証券株式会社	14,313,660株

会社の現況 (平成17年9月30日現在)

商号	日本郵船株式会社 Nippon Yusen Kabushiki Kaisha (NYK Line)
本店	〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目3番2号 電話 03-3284-5151 (代表)
創立	明治18年(1885年)9月29日(創業:同年10月1日)
資本金	88,531,033,730円
上場取引所	東京(第一部)、大阪(第一部)、名古屋(第一部)
従業員数	1,712名(陸上:1,272名、海上:440名) (出向者を含んでいます。)
会計監査人	中央青山監査法人

※本報告書の記載金額及び株式数は、表示単位未満を切り捨てて表示しています。

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月下旬
同総会権利行使株主確定日	3月31日
利益配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日

基準日

上記確定日のほか、必要あるときは予め公告のうえ基準日を定めます。

公告掲載新聞

日本経済新聞

決算公告に代えて、貸借対照表及び損益計算書を当社ウェブサイト上の次のアドレスに掲載しています。

<http://www.nykline.co.jp/koukoku/>

名義書換代理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(連絡先) 〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

テレホンセンター 0120-707-696 (フリーダイヤル)

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

単元未満株式の買取請求

単元未満株式(1,000株未満)の買取請求は、左記の名義書換代理人事務取扱場所または同取次所にて受け付けています。株式の保管振替制度を利用して預託された単元未満株式の買取請求は、預託窓口の証券会社を通じてお申し出ください。

手続関係用紙の請求

「住所変更届」、「単元未満株式買取請求書」、「配当金振込指定書」、「ご相続手続き依頼書」等のご請求は、名義書換代理人のテレホン自動音声応答サービス0120-864-490(フリーダイヤル)にて24時間承ります。

株式の保管振替制度を利用して株券を預託されている方の住所変更等は、預託窓口の証券会社へお申し出ください。

株主優待制度について

当社では株主の皆様のご支援に報いるため、飛鳥クルーズのご優待割引券を発行しております。ご請求はがきは株主総会決議ご通知に同封いたします。ご優待割引券の送付枚数は以下のとおりです。

3月31日現在のご所有株式数		ご優待割引券
1,000株以上	5,000株未満	3枚
5,000株以上	10,000株未満	6枚
10,000株以上		10枚

(有効期限：7月1日から翌年の7月31日まで)

- ご優待割引券1枚につき、1クルーズ(対象外もあり)1名様10%の料金を割引いたします(1名様1枚限り有効)。
- 他の割引券、早期申込割引等と重複してご利用にはなれません。
- 飛鳥クルーズにつきましては、郵船クルーズ(株)のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.asukacruise.co.jp>



NYK LINE
NIPPON YUSEN KAISHA

〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目3番2号

電話 03-3284-5151(代表)

<http://www.nykline.co.jp>

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています。